

■辻潤 翻訳家や評論家に留まることを嫌い、社会美学に立つダダストめざすも、精神破綻し窮死。
つじじゅん
秩父事件・1884＝ 東京浅草の札差を業とする家に生まれ、

富裕のなか、音曲の趣味豊かな母のもとに育ち、

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

大本教・・・1892＝ 8歳：この頃から尺八の音色に魅せられるなどするうち、
郡司千島探検1893＝ 9歳：
日清戦争始・1894＝10歳：
家が左前になって骨董商を営むようになった父が発狂・自殺してしまったため、

八幡製鉄始・1897＝13歳：止む無く中学校の2年で退学、母の勧めで、荒木竹翁に入門して尺八を学ぶ一方、

英語を独習し、内村鑑三の影響を受けてキリスト教の受洗もし、

教科書疑獄・1902＝18歳：私塾の英会話の教師となり、
日比谷公園・1903＝19歳：小学校専科教員となるとともに、

日露戦争終・1905＝21歳：
自宅で英語・尺八の個人教授などして、母妹を養う。

大逆事件判決1911＝27歳：_私立上野高等女学校の教師になった時、既に生徒だった伊藤野枝と運命的な出会いをし、
明治天皇没・1912＝28歳：_*女学校規則など省みない奔放な野枝をかばううち、自身も退職させられ、野枝と結婚、文筆生活を開始、
野枝との間に2人の子を持ち、
第一次大戦始1914＝30歳：_ロンゾーフ「天才論」を訳出してヒットするなどしたが、

民本主義・・・1916＝32歳：_*野枝が大杉栄のもとに走って破綻、以後、放浪生活を送るようになる。

_デ=クインシイ「阿片耽愛者の告白」・オスカア=ワイルド「深きより」など、ヨーロッパの前衛的作品を次々と翻訳、フランスのダダイズムをいち早くキャッチして毒舌を振るいながら、自らも著作し、

大暴落・・・1920＝36歳：
原敬首相暗殺1921＝37歳：
水平社結成・1922＝38歳：「浮浪漫語」、
関東大震災・1923＝39歳：<関東大震災>で大杉栄とともに野枝が虐殺される。
護憲三派圧勝1924＝40歳：「ですべら」などを出版する一方、殆ど省みられなかった宮沢賢治の「春と修羅」を激賞したり、宮崎を旅して武者小路の「新しき村」も訪ねて、東洋人としての自覚も示し、社会の圏外に立つことで身心の腐食を避けるといふ断絶の組織論を持つようになる。

共産党事件・1928＝44歳：_*{読売新聞}パリ特派員として渡欧が実現、ルイ=アラゴンらと交流し、読み応えある記事を送って、
世界恐慌・・・1929＝45歳：_帰国するが、「どうすればいいのか？」、
海軍軍縮条約1930＝46歳：_雑誌{ニヒル}を創刊して主宰。「絶望の書」を著すうち、
満州事変・・・1931＝47歳：
五一五事件・1932＝48歳：_*精神に異常を来たして入院。

芥川直木賞始1935＝51歳：「痴人の独語」、
二二六事件・1936＝52歳：「ぼうふら以前」、
日中戦争始・1937＝53歳：
総動員+健保 1938＝54歳：

愛する尺八を腰に、官僚的専制支配から逃れて自我に徹し、太平洋戦争突入を予感しながら、

日米開戦・・・1941＝57歳：
キャノビッチ「美への意志」を翻訳後、

年金+総武装 1944＝60歳：東京落合のアパートで_誰に見取られることもなく、窮死した。